

WHO—F I Cネットワーク会議 2005 東京会議

WHO Family of International Classifications Network Meeting Tokyo 2005

- 開催期間 平成17年10月16日（日）～22日（土）
- 会場 高輪プリンスホテル
WHO主催、社会保障審議会統計分科会共催
（事務局：厚生労働省大臣官房統計情報部）
- 参加者 WHO、協力センター、日本、オブザーバー（昨年度参加者約100名）
- 内容 全体会及び各委員会において、ICD等に関する技術的諸問題等について
専門家による意見交換を行うと共に、WHOへの提言をまとめる。（非公開）
なお、会議報告はWHOのホームページ上に公開される予定。
- 経緯 国際疾病分類（ICD）は、1900年（明治33年）に国際統計協会により人
口動態統計の国際死因分類として制定されて以来、医学の進歩や社会の変化
に伴いほぼ10年ごとに修正が行われてきている。
第2次大戦以降は、世界保健機関（WHO）の所管となり、世界保健憲章
に基づいたものとなった。また、大戦後の1948年（昭和23年）に行われた
第6回修正において、死因の分類から疾病、傷害及び死因の分類とする配慮
が行われ、準則を設け原死因の取り方を国際的に統一するとともに、死亡診
断書の様式を統一するなどの大修正により、今日の分類の基本的な型が作ら
れた。2001年からはICDと「国際生活機能分類」（ICF）を中心としてそ
の他の関連分類をまとめた「WHO国際分類ファミリー」（WHO—F I C）
となった。
一方1979年から毎年10月に協力センター長によるセンター長会議が開催
され、2003年以降は協力センター以外の国々も参加するWHO—F I Cネッ
トワーク会議と名称を変更し、協力センター（現在12）を中心とした専門家
による定期会議が、協力センター国の持ち回りで開催されている。
日本は1979年から毎年参加しており、過去2回（1986、1996年）開催国
となっている。